

## (3) HIV陽性者の生活と社会参加に関する研究

- **研究分担者**：若林 チヒロ（埼玉県立大学保健医療福祉学部）
- **研究協力者**：生島 嗣（特定非営利活動法人ぷれいす東京）  
大槻 知子（財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント）

### 研究要旨

医療の進歩によりHIV陽性者は身体的には健康状態を維持しやすくなったが、職場や地域での社会生活には多くの課題が指摘されている。本研究では、初年度から2年度目にかけて、HIV陽性者の生活と社会参加の現状と課題を明らかにする質問紙調査を実施し、陽性者の地域生活を支援する環境整備のための基礎資料を提供した。調査結果からは、HIV陽性者が職場で抱える問題とその背景には同僚や上司の無理解や偏見があることが指摘された。HIV陽性者が地域生活を送る上では、陽性者本人への支援だけでなく、地域や職場、学校で生活をともしする人々が、HIV陽性者の働き方や生活の現状と問題点を具体的に理解できるよう支援することが重要であると考えられた。

そこで、最終年度となる今年度は、調査結果に分析・検討を加え、関連諸機関への調査結果の還元と啓発資料の作成・普及をおこなった。ハローワークなど就労支援の行政窓口では、短時間にポイントを集約して活用できる資料が必要とされていたことから、就労支援用のパンフレットを新たに作成し関係機関に配布することで、HIV陽性者の生活を理解しやすい環境整備に努めた。

#### A 研究目的

医療の進歩に伴いHIV陽性者は身体的には通常の生活を送ることが可能になったといわれるが、HIV感染症への偏見は解消されておらず、職場や地域における社会生活では様々な課題が指摘されている。とくに就労は、社会参加の手段としても、長期化する療養生活を支える生計維持にも重要であるが、職場ではいまなお多くの課題が指摘されている。

そこで本研究では、HIV陽性者の生活と社会参加の現状を明らかにする調査をおこない、結

果にもとづき今後の対策の基礎資料を提供することを目的とした。調査結果からは、HIV陽性者が職場で抱える問題とその背景には同僚や上司の無理解や偏見があることが指摘された。HIV陽性者が地域生活を送る上では、陽性者本人への支援だけでなく、地域や職場、学校で生活をともしする人々が、HIV陽性者の職場や地域での働き方や生活の現状と問題点を具体的に理解できるよう支援することが重要であると考えられた。最終年度となる今年度は、調査結果

を分析しつつ、啓発資材を作成して、地域生活を支援する環境整備をおこなうことを目的とした。

## B 研究方法

本研究班で実施した「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」を分析して、学会としては、国際エイズ会議 The18th International AIDS Conference、第24回日本エイズ学会学術集会、第69回日本公衆衛生学会総会にて発表し、関係諸団体と意見交換をおこなった。その他、テレビや雑誌などのメディアや地域支援者からの依頼に対して、調査結果を加工・分析して提供し、研究成果の還元と啓発活動に努めた。また、調査結果や関連のデータを用いて、就労支援を目的としたパンフレットを作成し、ハローワーク、障害者職業センター、保健所、地方自治体などの関係機関に配布し、窓口や研修会などでの活用を図った。

## C 結果

調査結果や関連データをもとにして、人々が陽性者とともに働いたり地域生活をともにする場合に必要な最低限となる情報を整理した。

読者・情報の受け手は、30歳代以上の人では治療困難なHIV感染症という古いイメージを持ったままであったり、若年層では予防啓発以外の情報が不足していたりすることから、現在ではHIV感染症の治療法は進歩しており、陽性者の生活や人生は変化していることが伝わるよう努めた。

分量的には情報量が多いとハローワークなど就労支援の行政窓口や職場での啓発活動において活用しにくいという意見が多く寄せられていたことから、短時間にポイントを俯瞰しつつ支援活動ができるよう情報内容を取捨選択し、必

要最低限の情報量にとどめた。

内容は、基本的なHIV感染症の知識と、最新の治療法、日々の生活に必要な健康管理といった医療面の情報と、陽性者の働き方と職場、職場で求められる対応など就労上の問題とその対処事項である。具体的には添付資料参照。

## D 考察

今回作成したパンフレットは、ハローワークなどの就労支援の窓口担当者や一般企業・団体などの職場で、雇用者や人事担当者、同僚がHIV陽性者理解のために活用することを目的としている。HIV陽性者の地域支援には、直接陽性者を支援することも重要であるが、いっぽうで陽性者と地域生活をともにする人々の理解を促進することが不可欠である。これまで一般市民向けの啓発には、簡潔にメッセージを伝えるポスターやCM、一般論としてのHIV陽性者との共生や差別禁止を説くための資材はあったが、現実的に陽性者と地域や職場で日々の生活を共にする場合に求められる情報の提供となると、必ずしも十分に提供されてきたとは言い難い。

このような背景を意識して、今回、平易であるが最低限必要な情報を整理して、簡潔にポイントをまとめることに努めた。本研究内では、本パンフレットがどの程度効果があるかといった効果評価はできていないが、今後、より効果的な媒体を作成するために、地域や学校、職場などそれぞれの場面で求められる情報、誤解を招きやすい表現などに修正を加えて、効果的な改訂版を作成していくことが必要と思われる。

## E 結論

本研究は、2年度目までにHIV陽性者の生活と社会参加に関する実態調査をおこない、今年



度はこの調査結果の分析と公表、一般向け普及啓発資料の開発をおこなった。HIV陽性者の社会生活を阻害している要因には、地域における住民や就労の場における同僚や上司など人々のHIVへの理解の不足や偏見があり、陽性者の地域生活の質の向上には、人々のHIVへの理解をこれまで以上に踏み込んだ形で促進する必要があると考えられた。

## **F** 発表論文等

(2010年度学会発表)

1. Wakabayashi C.,Ikushima Y.,Ohtsuki T. : QOL and Socioeconomic Background of People Living with HIV: a nationwide survey in Japan. The18th International AIDS Conference. July 18-23 ,2010, Vienna, Austria.
2. Ikushima Y.,Wakabayashi C.,Ohtsuki T. : Evaluation of AIDS-Related Measures by People Living with HIV/AIDS in Japan. The18th International AIDS Conference. July 18-23 ,2010, Vienna, Austria.
3. Wakabayashi C.,Ikushima Y.,Mochizuki A.,Ohtsuki T. : Working environment for female PLWH/A in Japan. The18th International AIDS Conference. July 18-23 ,2010, Vienna, Austria.
4. 若林チヒロ,大木幸子,生島嗣 : HIV陽性者の地域支援研究(3)全国の陽性者における地域生活と政策評価に関する調査,第69回日本公衆衛生学会総会,2010年,東京.
5. 若林チヒロ,生島嗣,大槻知子 : HIV陽性者の離転職と職業異動－ HIV陽性者の社会生活に関する全国実態調査の結果から,第24回日本エイズ学会学術集会,2010年,東京.
6. 大槻知子,若林チヒロ,生島嗣 : 女性HIV陽性者の就労環境－ HIV陽性者の社会生活に関する全国実態調査の結果から,第24回日本エイズ学会学術集会,2010年,東京.
7. 生島嗣,若林チヒロ,大槻知子 : HIV陽性者の就労とプライバシー不安－ HIV陽性者の社会生活に関する全国実態調査の結果から,第24回日本エイズ学会学術集会,2010年,東京.

(報告書・総説・その他)

1. DVD : 地域におけるHIV陽性者等支援のための研究班DVD制作チーム,HIV陽性者の生活と社会参加,対応する際に知っておきたいこと－地域におけるHIV陽性者の支援,2010年.
2. パンフレット : 若林チヒロ,生島嗣,大槻知子. 職場とHIV/エイズ－治療の進歩と働く陽性者－.2011年.